

# CLEAR BLUE SKY - URUHA 2

written by HADEYA

## 1、殺しの美学

自分より上の殺し屋がいる事を許さない、許してはならない——それが美学。

ガムをクチャクチャ食べながら秋津夏美は区役所通りを歩いていた。サングラスの下、昼空を眺める。

虚しい。

虚しさを晴らすにはどうしたら良いか考えた。考えても考えても、どれだけ考えても答えは見付からなかった。

## 2、テトラ

シケイダ3301——インターネット史上最大のミステリー。その背景にはゲノムの解読が関係している。ある時、某研究者がゲノムに〈クラック・コード〉がある事を突き止めた。全ゲノムを無効化する究極の抹殺遺伝子。しかし、この遺伝子には秘密があった。つまり——感情爆発。

研究者たちは、この機能に注目した。クローン猿に投与したところ、檻の中、猿は暴れ回って発狂死した。30年以上前の話だ。やがて世界で最初のクローンが生まれる事になる。それが〈ドリー〉だ。しかし誰も知らない。その後、ドリーがどうなったか。

.....無駄な説明は省こう。新堂鬼平は禁断の遺伝子を入手した。そして我が子に投与する事になる。様々な生物の混合種として。そうやって、ウルハは生まれた。つまり、ウルハは——

「キメラ」

「.....済まないと思ってる」

**「御免で済んだら警察は要らない。要らないわよ、こんなクソみたいな人生。けど、それじゃ気が取まらない。けど、それじゃあ私は感情を抑え切れない。私が感じているのは、空虚。それを満たす為、私は殺す。片っ端からブツ殺す。今日も殺すし、明日も殺す。だからこそ私は呼ばれる訳——死神」**

金切り声を上げながらダガーナイフをテトラの右目に突き立てた。滅多刺しにしてやった。切り刻んで切り刻んで、ザックザクに切り刻んだ。いつしか空虚は殺意へ転じ、自己満足へ昇華する。

「突入！」

警察機動隊が一斉に室内に流れ込んだ。

現行犯逮捕——ウルハは復讐を果たす為、シケイダ3301への潜入を開始した。

## 3、慇懃無礼な

昨夜、中国人マフィアの老板が殺された。ピストルでコメカミを一発。立て続けに〈大物〉が殺され

て行く。鑑識結果、全ての遺体の致命傷から硫酸が検出された。しかし肝心の弾丸は、どこを探しても見付からなかった。

時を同じくして鶯谷駅近郊のラブホテルで別の中国人マフィアの死体が発見される。死体には殴打の痕跡があり、死因は撲殺と思われる。

.....鋭い読者の皆様はお気付きの筈だ。犯人が誰で目的が何か。この事件には先日、成田空港に秋津夏美名義の偽造パスポートで入国した慇懃無礼な態度の女性が関係している。

#### 4、パーティーはこれからよ

「みんな、中国人の件が片付いたと思ったでしょう。実はこれから始まるの」

「.....な、何が言いたい？」

「今は特別な時間って、事。だって、釣り.....中国人は幾らでもいるでしょう？」

言うなり.....パーティーが始まった。アメリカのインフラ崩壊、アジアでの個人的復讐。これが世界のメカニック破壊。次に動くのは当然、極寒の地——ロシア。

**「間もなく、パーティーが始まる。事前に言っておくけど、次のパーティーはかなりキテるわよ」**  
**ウルハの唇の両端が釣り上がる。ニヤリと笑みを浮かべ、拳の関節を鳴らす。**

「や、止めてくれ！」

**絶体条件は世界の崩壊。意味深な言葉。世界の崩壊.....。**

#### 5、出来の悪い不合格者

無人のフロアに足音が響く。コツンコツン、と。ウルハは背後を振り返った。ピストルを手にした全裸の女性が接近して来る。ロシア人のようだ。

「お待ちせ、ナンバー1。まず貴女が本物の死神である事を示して頂きます」

ウルハは飛び掛かった。正面に向かって突っ込み、正面でカーブを描き、ナンバー3の背後へ回り込む。

「正確なスピードと最小の運動量、異常なまでの残虐さ。本人と確認しました。完全立証です」

「違う。不完全立証よ。出来の悪い不合格者」

ウルハがサングラスを外し、目を見せた。死神の陥没した目を。

「な、な.....」

ロシアン女性の腕が曲がる。弧を描きながら銃口を手前のコメカミに向ける。

**「これで合格。はい、卒業記念の一発」**

パン！ 乾いた銃声が響いた。ピストルが宙を舞い、クルクル回転しながらウルハの右手に収まる。

ウルハはサングラスを装着すると、フツと煙のように忽然と姿が消えた。フツと忽然.....。

## 6、その頃

FBIが掘っ立て小屋に突入した。大統領宛ての脅迫状メールに記されたIPアドレスを追跡すると、ここに辿り着いた。室内には二枚のプリントアウトが入った茶封筒。

一枚の紙には外国に潜伏する自国スパイのリストが、もう一枚の紙には新世界秩序の段取りを記したダークウェブに繋がるQRコードがプリントされている。

大統領は賭けに出た。これらの資料が明るみに出れば、敗北宣言を行わざるを得ない状況。そしてFBIのエンジニアがQRコードをスキャンする——

勿論、それが合図。

## 7、

何かが可笑しい——直感でピンと来る。

中国人マフィアは撲殺した。大物を次々と消した。あれ自体は殺戮衝動を満たす為、私が殺った。

「床に伏せろ！ 言う通りにしねえと、ブツ殺すぞ！」

証券取引場のメインサーバーへの侵入も果たした。見張りにゴウとアキラを立て。ウルハ——死神はハードディスクの内部に潜伏中。何かが可笑しい.....ウルハは本能で気付いていた。

「メカニック破壊」

呟いた。キャバクラで働いていた頃、客から聞いた。どんな物にもメカニックは存在する、と。今、私たちは世界のメカニック解体を試みている。しかし世界にメカニックは存在するのか。存在するとしたら方程式はどこにあるのか。

「肉体の外部」

正しい。完全正しい。争点になるのは世界のメカニックが外部にあるとしたら——

「トラブル発生」

ゴウが告げた。ウルハは冷静沈着だ。

「逆を付き、それを継続する」

トラブルが起きた事は二次トラブルが起きない事を意味する。

もう可笑しくない——ウルハは諭した。

証券取引場のアルゴリズムに方程式を入力する。

「1+1=3」

一件落着だ。インフラ崩壊のカウントダウンが始まった。

新たな経済ショックの発生によって社会は完全に崩壊。同時にこの小説も崩壊して行く。ウルハは高級マンションのペントハウスにいる。だだっ広い部屋の真ん中に。

CDでヒップホップのトラックを再生した。超高速ラップでレッツ・ミュージック！

同時に地震が起きた。リズムが刻まれる。揺れが一層、激しくなる。高層マンションはグラグラ揺れている。ウルハ自身もグラグラ揺れている。

激震が走り、壁に亀裂が走った。ゴオオと言う未知の重低音と共にマンションが倒壊して行く。

「いやっほ〜！」

**速度超過のF1カーに乗った気分。ヘリのプロペラに巻き込まれる気分。**

**叫びがブツ切れになり、虚しいエコーを伴って、ブラック・スクリーンに響き渡る。これで一卷の終わり、だ。F1カーは壁にクラッシュし、プロペラは俺の身体をミンチにする。後に続く悲鳴と絶叫。そして静寂。これでいいのさ、これがいいのさ。ブツ壊れた世界にスパークする、打ち上げ花火。**

**ハハハ.....愉快的気分。あ**

ああ、あ

## 9、あ

ああああ 電+源スイッチを入れる。私+自身のスイッチが入る。+++ダイナミック・エア一型のヘッドフォンを装着+する。ス+リップマット+の上にレコー+ド+を乗せ、神++経を研ぎ澄ま+せる。私自身が+ +針+となり、私自身+が音+とな+る。あああああああああ+あああ

私+の名は+シンド++++ウ・ウ++++ル+ハ。天+才+系+。あ プ+ラッターが回転++++する+。音もなく静+か++++に回++++転する。レコードが回る。イントロが+流れる。狂+気が、幻覚が、止め++++処++++なく溢れる+。

+あああああああああああああああああああああ +あああああああああああああ +++++俺が+モ+ノ+ホ+ンの音楽++++聴か+せて+やるよ。ああああああ あああああああ++++あああああああ+狂+気の+ドラムン・トラックがヘ+ッド+フ+オンを+突+き+抜ける+。狂ったビートが爆音でヘッドフォンを突+ +抜ける。ああ

あああああああああああああ +あiiiiiiiiiiiiii あい あiiiiii ++++++

彼女+の名は+シンド++++ウ・+ウルハああ。天+才+系+あ+

## 10、突き抜けエンド

ウルハは弾丸に硫酸を塗っている。

弾丸をマガジンに装填し、愛銃である〈シグ19〉をコッキングした。ウルハは銃口を真正面に向けた。真つ向勝負——ありとあらゆる諸問題に立ち向かう。

ウルハの心は燃えている。その目はターゲットを見据え、銃口は正面に向けられている。引き金に指を添え……。この世界、俺たちが生きる世界。私は信じる。自分を。己の卓越した戦闘能力を。「神のご加護を」  
眩き、トリガーを引いた。硫酸弾丸がマズルフラッシュと共に銃口から飛び出る。

弾丸が飛ぶ。硫酸の塗られた弾丸が。  
弾丸は貫く。読者の眉間を、過去と未来を。何もかも貫通し、突き抜ける。

理性までもが粉々に吹き飛ぶ、この快感。  
弾丸にはメッセージが刻まれている——殺すっつってんだろう、クソツタレ。ブツ殺してやる。

白いフラッシュが弾けた。新たな闘いが始まった。  
新作を待ってな。

## 11、再起不能のベル

【歯車が外れる。メカニックが停止し、バラバラになる。その感覚と言ったら。私自身がバラバラになる、その感覚……】

地面に激突した。瞼の裏に白い文字が浮かぶ——代償、と。それが私が最後に見た光。私はウルハの歯車を破壊しようとして自分のメカニックを破壊している事に気付かなかったのだ。本当だろうか??? そんな訳ない。そんな事ある訳ない。

……何かが可笑しい。思考が鈍るのを感じる。恐らく、ウルハの歯車の崩壊が伝わっているのだろう。心地良い、カ・イ・カン。コンクリートで出来た、シェルターに引き籠っていれば、安全だ。絶対に誰も侵入できないからだ。ウルハだけでなく……皆殺しにしてやる。皆殺しに。

【突然、地面が割れた。私は落下した。どこまでも、どこまでも。一体、何が起きているのか。まさか……】

破壊の代償——闇。噂に聞いた。そんなモノある訳がない。落下しながら今一度、意を決する。もしウルハが私を破壊するなら、わ・た・し・が・ウルハを破壊してあげる。フフフ……

計画＝ウルハのメカニック破壊。私は知っている。ウルハの構造を。ウルハはブツ放すしか能がない阿呆だ。ならブツ放せなくするだけ。方法は簡単。ここに引き籠っていれば無敵だ。あとは中枢である〈脳〉を一撃。口先だけのハッター野郎を地獄に墮とす。やってやる。本気で私はウルハと皆を——

【歯車が外れる。メカニックが停止し、バラバラになる。その感覚。私自身がバラバラになる感覚……】

闇——それが真実。破壊欲求がトリガーとなって、私は再起不能になっていた。私は……泣く事も出来ず、ただただ、おぞましい悲鳴を上げていた。

## 12、MANY PEOPLE DYING

マップにカチ込みを掛けた。テトラをメッタ斬りにして、中国人マフィアのセクハラ野郎をブチノメした。陥没した目で睨みながら、超能力でロシアンの殺し屋の脳天を吹っ飛ばしてやった。FBIに挑戦状を送り付け、経済誤差でインフラをブツ壊した。それから——

狂ったように暴れ、酩酊し、硫酸弾丸で貴様の顔を撃ちまくった。  
馬鹿丸出しのクソ女を再起不能にして、バラバラに解体した。今に至る。

\*

今、私は走っている。夜道を。向かう先はホワイトハウス。かつて友人が囚われた〈惨劇の部屋〉だ。  
走る。走る。走る。間に合うかどうか分からない。とにかく走り続けた。  
その時、カーラジオから声が聴こえた。  
「私はウルハを信じます」  
友人の声。続けて銃声。そこでラジオが途絶えた。

泣いた。泣き崩れた。

ハンドルから手を離す。車体が逸れ、路肩に突っ込んで行く。叫んだ。腹の底から絶叫した。  
ハンドルを握る。寸出のところで事故を回避した。再びアクセルを踏む。泣きながらアクセルを踏み込む。  
……これは伴い合戦。負ける訳には行かない。連中を倒す。お前の無念、私が晴らす。

意を決した。涙を拭い、アクセルを目一杯、踏み込んだ。私は……惨劇の部屋にいる連中を片っ端から皆殺しにするつもりだった。殺す。連中を殺す。私の意志は固い。  
「無茶はしないで。国家反逆罪になる」  
どこからともなく女性のか細い声が告げた。私は答えた。  
「傍観者は引っ込んでろ」  
私の愛車は一直線の軌道を描いている。ホワイトハウスを目指し。

夜。その走りに迷いはなかった。(ア)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872